

オーストラリア 北部準州がマンゴーの半分以上を生産

FreshPlaza 2024年1月8日

ノーザンテリトリー(北部準州)はオーストラリアで一番の高品質マンゴー産地であり、オーストラリアで人気の高い甘いマンゴーは正にここで生産されている。マンゴーの出荷シーズンが終わったところであり、新しい数字によると、準州では今シーズン341万箱のマンゴーが収穫・梱包され、オーストラリアの総生産量の51%以上を占め、前年の49%を上回った。

2023/24年度には、準州の6,350ヘクタールのマンゴー農園で2万3,926トンのマンゴーが収穫され、2千人以上の直接雇用を支えた。マンゴーは準州にとって最大の輸出園芸作物であり、マンゴー生産者は国内外の強力なパートナーシップを活用して、毎年何トンものマンゴーを中東諸国、シンガポール、ニュージーランド、韓国、香港、カナダに輸出している。

準州のマンゴーは高い品質で有名だが、今年は優れた味と品質により需要と販売額が高まると予想されている。準州労働党政府は、9つの研究開発プロジェクトを通じて資金を提供し、引き続きマンゴー産業を支援している。これらのプロジェクトは、遺伝資源、気候変動への適応力、品種評価、地理的多様化、収穫後の品質と貯蔵性予測について調査研究を行い、業界の革新的な文化と能力を構築することを目的としている。

マーク・モナハン農業ビジネス・水産大臣の話: 準州で栽培されたマンゴーは国内最高と認識されており、当地の気候のおかげで、毎シーズン最初のマンゴーを地元の水産市場のほかオーストラリア全土の主要なスーパーマーケットチェーンに供給している。我々の高品質で味の良いマンゴーは世界中に輸出されており、準州で最も価値の高い園芸産品として、準州政府は引き続き生産者と協力して業界のさらなる成長を支援していく。準州労働党政府は、準州の質の高い園芸・農産物の重要性を認識しており、そのために助成金、研究プログラム、地域開発を通じて、引き続きこの産業に投資し、育てていく。

カナダ ブリティッシュコロンビア州のリンゴ産業は起死回生策を模索中

FreshPlaza 2024年1月8日

ブリティッシュコロンビア州のリンゴ生産者らは、業績悪化で利益が減る中、業界の崩壊を食い止める方法を模索している。一部の人は、主要な果実輸出産地としての同州の評判を損なう恐れのある下降スパイラルを止めるための最良の策として、有識者会議の設置を検討しているが、この案は競争の激化から利益を得ている他の人々の間で物議を醸す可能性がある。

過去10年間のほとんどの年でリンゴの収益性は低く、一部の生産者はリンゴ園を伐根してサクランボや醸造用のブドウを植えることを選択した。農業省の報告書によると、2015年から2020年の間に同州のリンゴの栽培面積は8%減少し、直近ではさらに減少したと見られる。

サマーランド地区の農場でリンゴとサクランボを栽培するスクディープ・ブラー氏は、その10ヘクタールのリンゴ園の収益がそれを維持するのに見合う価値があるのか疑問に思うことがあると認め、「生産者が儲からなければ、果樹園への投資(肥料や病虫害駆除のための投入等)は少なくなる。それは、果樹の健康や果実の品質、新しい機材の購買力に悪影響を与え、我々を負のスパイラルに陥れる」と述べた。

同州のリンゴ産業の衰退は、しばらく前から顕在化していた。コロナ禍での労働力不足が収穫を妨げ、2年連続の熱波が作物に被害を与える前から、オカナガン湖畔地域(サマーランド地区が含まれる)のリンゴ生産者はすでに収益性の低さに直面していた。生産者の梱包組合は、次第に独立系梱包業者に市場シェアを奪われ、競争の激化と価格の低下を招いていた。同時に、小売業界の統合により、価格設定における大手食品企業の力が強くなり、一方(隣接する)ワシントン州(米国)の果樹園は着実に拡大した。

現在、果樹生産者協会は、リンゴ販売有識者会議のアイデアを模索する委員会を率いている。生産者との協議が来週開始され、数週間で報告書を出す予定である。委員会は、有識者会議を設置する提案について生産者の投票を行うのに十分な支持があるか判断する必要がある。投票は春にも行われるかもしれない。

出典: vancouver.sun.com